

進化する個性派化学

昭和電工株式会社

2014年第1四半期 決算説明資料

2014年5月8日発表
(2017年4月25日訂正)

取締役 執行役員 CFO
武藤 三郎

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向及び市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

連結対象会社(前期末対比)

- 連結子会社 46社 (+4社)
 - 上海昭和化学品有限公司 (化学品セグメント)
 - 浙江衢州巨化昭和電子化学材料有限公司 (化学品セグメント)
 - 昭和電工アルミ(南通)有限公司 (アルミニウムセグメント)
 - (株)ビー・インターナショナル (その他セグメント)

- 持分法適用会社 14社 (△1社)
 - 東京アルミ線材(株) (清算)

主要諸元

(期中平均)

	2013年1 - 3月	2014年1 - 3月	増減
■ 為替レート ※ (円/US\$)	92.4	102.8	10.4 円安
■ 国産ナフサ (円/KL)	63,800	72,000	8,200
■ アルミ地金LME (US\$/T)	2,041	1,752	△289

※13年12月末レート105.4 円 14年3月末レート102.9 円 ⇒ 2.5 円高

連結業績の概要

(億円)

	2013/1-3	2014/1-3	増減
売上高	1,924	2,088	164
営業利益	34	75	41
営業外損益	5	△10	△15
金融収支	△8	△6	2
持分法投資損益	3	6	3
為替差損益	13	△1	△14
その他	△4	△10	△6
経常利益	39	65	26
特別利益	10	7	△2
特別損失	△23	△21	2
税金等調整前四半期純利益	25	51	26
法人税等	19	△49	△68
少数株主損益調整前四半期純利益	44	2	△42
少数株主損益	△3	3	6
四半期純利益	41	5	△36

特別損益の内訳

(億円)

	2013/1-3	2014/1-3	増減
■特別利益	10	7	△2
●投資有価証券売却益	—	7	7
●契約解除補償金	8	—	△8
●その他	2	0	△2
■特別損失	△23	△21	2
●固定資産除売却損	△4	△3	1
●事業構造改善引当金繰入額	△14	—	14
●減損損失	△1	△15	△15
●その他	△4	△2	2
■特別損益	△13	△14	0

連結売上高差異内訳

(億円)

	2013年 1 - 3月	2014年 1 - 3月	増減	項目
石油化学	659	621	△39	オレフィン: 減収(エチレン生産設備の定修による数量減) 有機: 増収(酢ビ、酢エチ: 数量増)
化学品	296	333	37	基礎化学品: 増収(AN: 市況上昇、クロロプレンゴム: 数量増) 産業ガス: 増収(数量増) 情報電子化学品: 増収(海外向け出荷増) 機能性化学品: 増収(数量増)
エレクトロニクス	320	372	52	HD: 増収(HDD業界の需要増による数量増) 化合物半導体: 小幅増収(数量増) レアアース: 増収(数量増)
無機	155	160	5	セラミックス: 増収(研削材: 数量増) 電極: 前年同期並み
アルミニウム	191	212	21	圧延品: 増収(コンデンサー用高純度箔: 数量増) 機能部材: 増収(ショウティック: 数量増) アルミ缶: 増収(数量増)
その他	391	491	100	リチウムイオン電池材料: 増収(数量増) 昭光通商: 増収、ビーインターナショナル: 新規連結
調整額	△89	△101	△12	
合計	1,924	2,088	164	

連結営業利益差異内訳

(億円)

	2013年 1 - 3月	2014年 1 - 3月	増減	項目
石油化学	9	△1	△10	オレフィン:減益(定修による数量減) 有機:減益(原料価格上昇)
化学品	8	10	2	基礎化学品:減益(アンモニア原料高) 産業ガス:小幅増益 情報電子化学品:小幅増益 機能性化学品:前年同期並み
エレクトロニクス	25	81	56	HD:増益(数量増) 化合物半導体:増益 レアアース:増益(数量増、低価格影響差)
無機	△1	△4	△4	セラミックス:減益(電子材料分野向け価格低下) 電極:減益(主に価格低下)
アルミニウム	10	9	△2	圧延品:増益(コンデンサー用高純度箔:数量増) 機能部材:増益(数量増) アルミ缶:減益(原料価格上昇)
その他	△3	1	4	リチウムイオン電池材料:増益(数量増) 昭光通商:増益
調整額	△15	△21	△5	
合計	34	75	41	

連結貸借対照表

(億円)

資産	2013年 12月末	2014年 3月末	増減	負債・純資産	2013年 12月末	2014年 3月末	増減
現預金	682	564	△118	営業債務	1,242	1,014	△228
営業債権	1,561	1,348	△213	有利子負債	3,537	3,611	74
たな卸資産	1,202	1,213	11	退職給付引当金	203	182	△21
その他	301	322	21	その他	1,418	1,327	△91
<u>流動資産計</u>	3,746	3,448	△298	<u>負債計</u>	6,400	6,134	△265
建物・構築物	855	850	△5	資本金	1,406	1,406	—
機械装置・運搬具	1,116	1,096	△21	資本剰余金	622	622	—
土地	2,546	2,544	△2	利益剰余金	584	544	△40
他有形固定資産	424	480	56	自己株式	△1	△1	0
<u>有形固定資産計</u>	4,941	4,970	29	<u>株主資本計</u>	2,610	2,571	△40
無形固定資産	110	111	1	その他有価証券評価差額金	58	39	△20
投資その他の資産	1,061	977	△85	繰延ヘッジ損益・為替換算調整勘定	64	41	△23
(内、投資有価証券)	787	751	△36	土地再評価差額金	279	279	0
				<u>その他の包括利益累計額合計</u>	402	358	△43
				少数株主持分	446	442	△4
<u>固定資産計</u>	6,112	6,058	△54	<u>純資産計</u>	3,458	3,371	△87
資産合計	9,858	9,505	△353	負債・純資産合計	9,858	9,505	△353

総資産・有利子負債・D/Eレシオ・自己資本比率

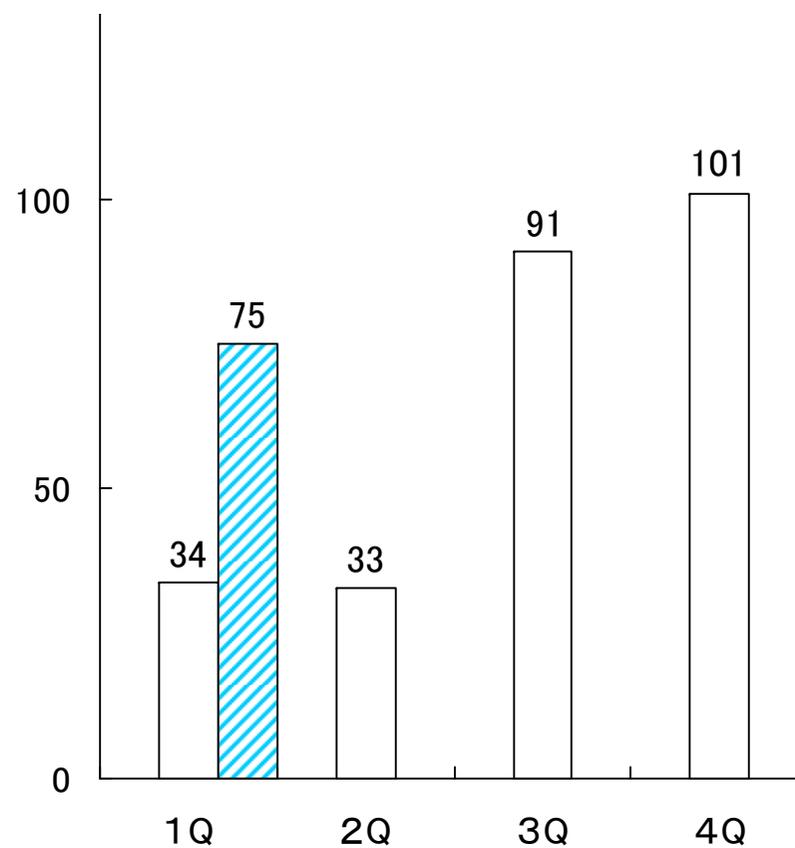
	2013年12月末	2014年3月末	増減
■ 総資産	9,858億円	9,505億円	△353億円
■ 有利子負債	3,537億円	3,611億円	74億円
■ D/Eレシオ	1.02倍	1.07倍	0.05pt増
■ 自己資本比率	30.6%	30.8%	0.2pt増

(ご参考) 四半期別連結営業利益推移

■ 全 社

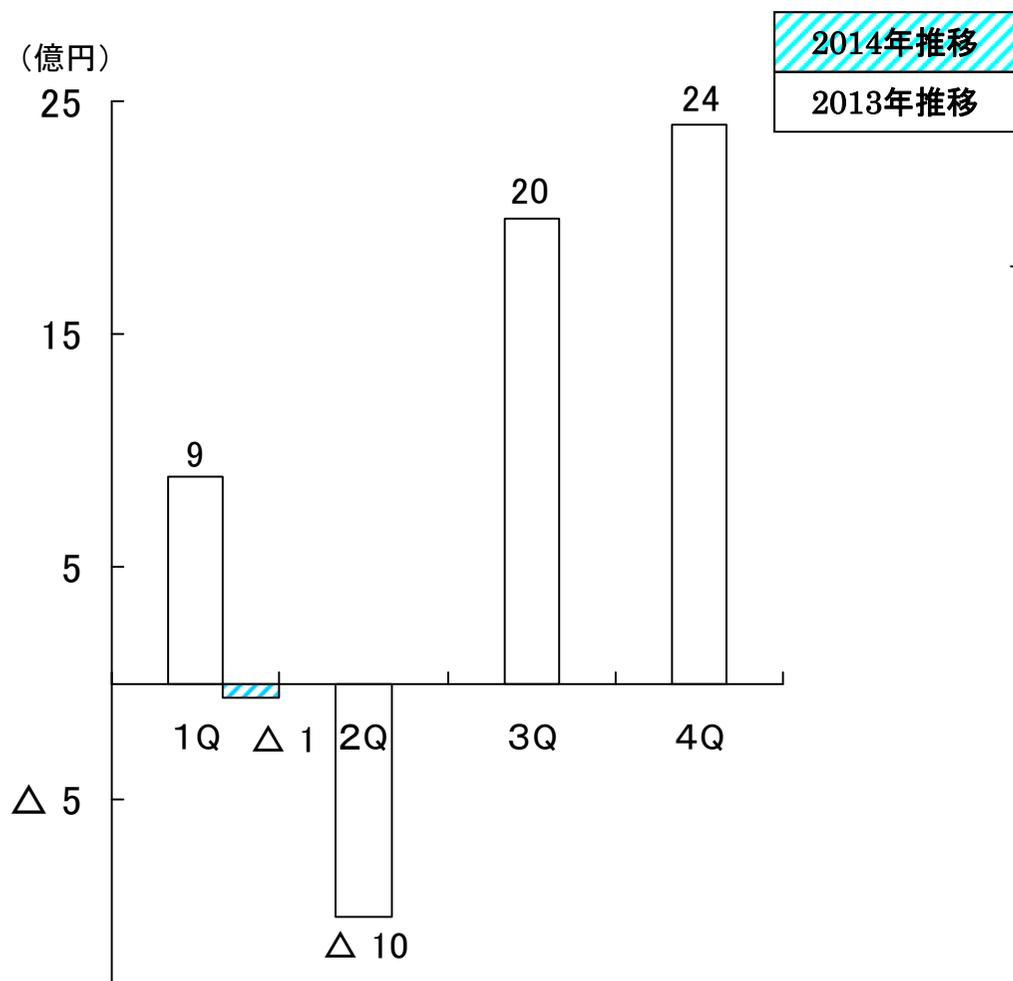
2014年推移
2013年推移

(億円)

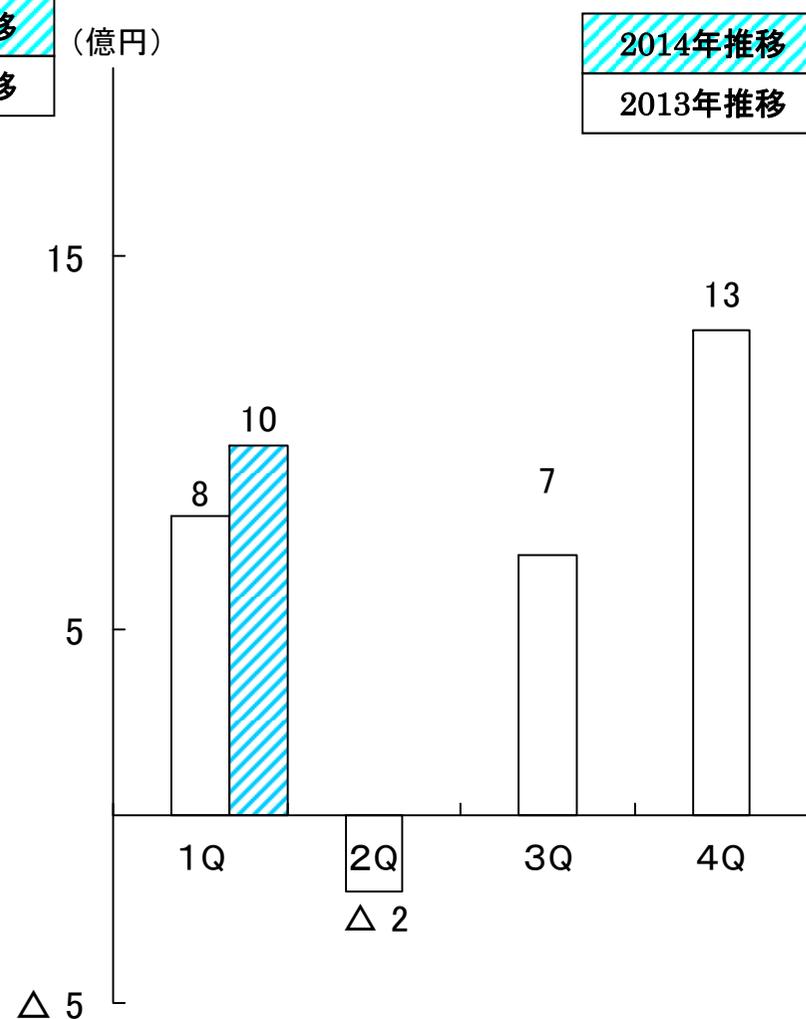


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■石油化学セグメント

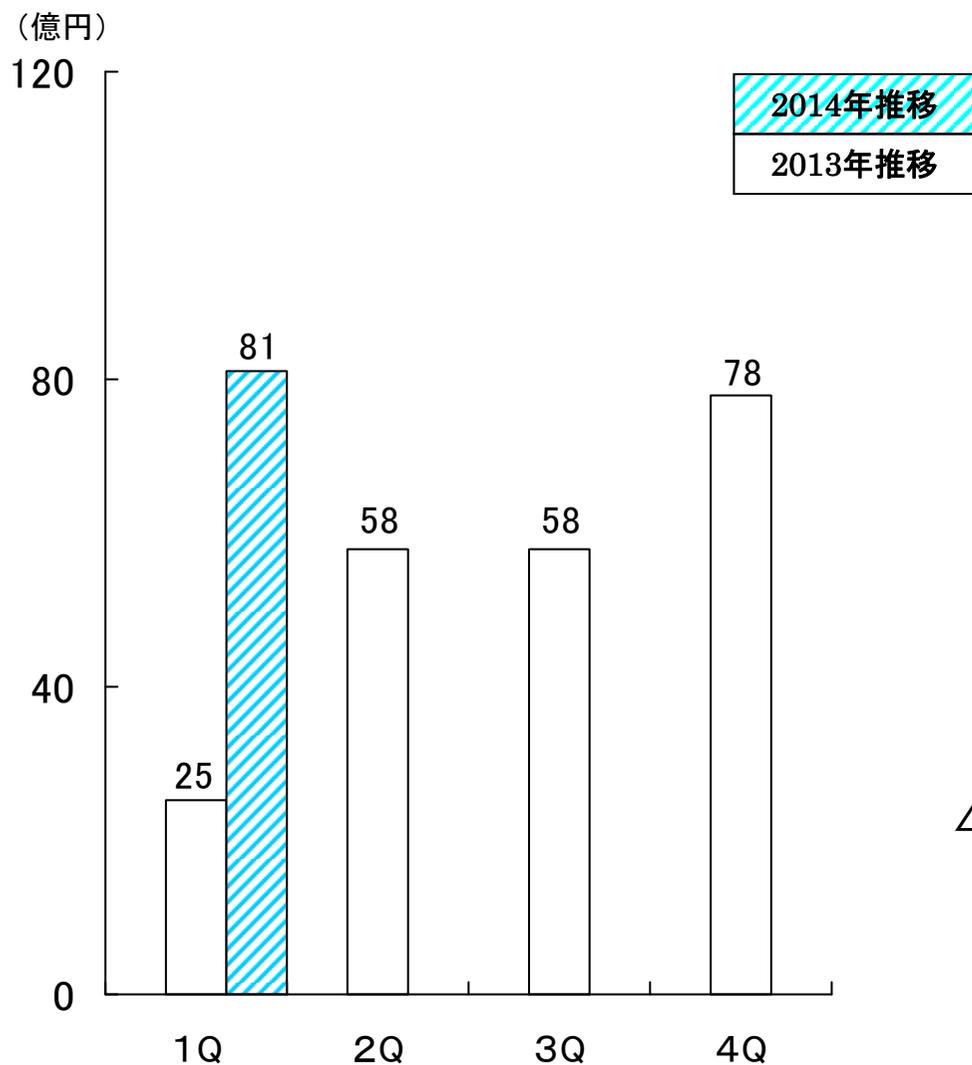


■化学品セグメント

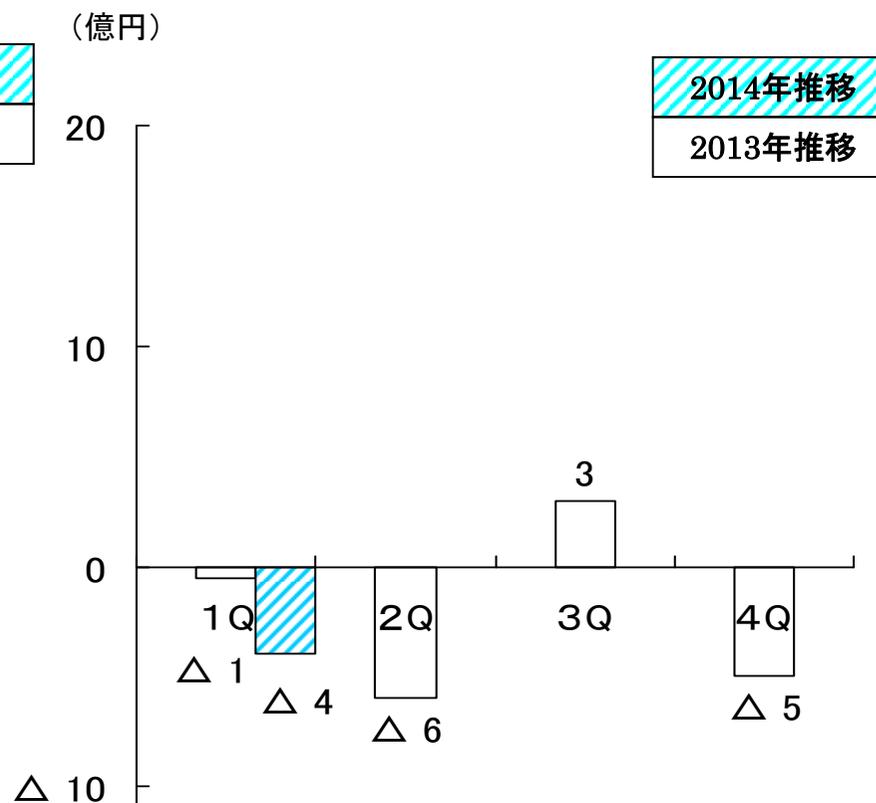


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■エレクトロニクスセグメント

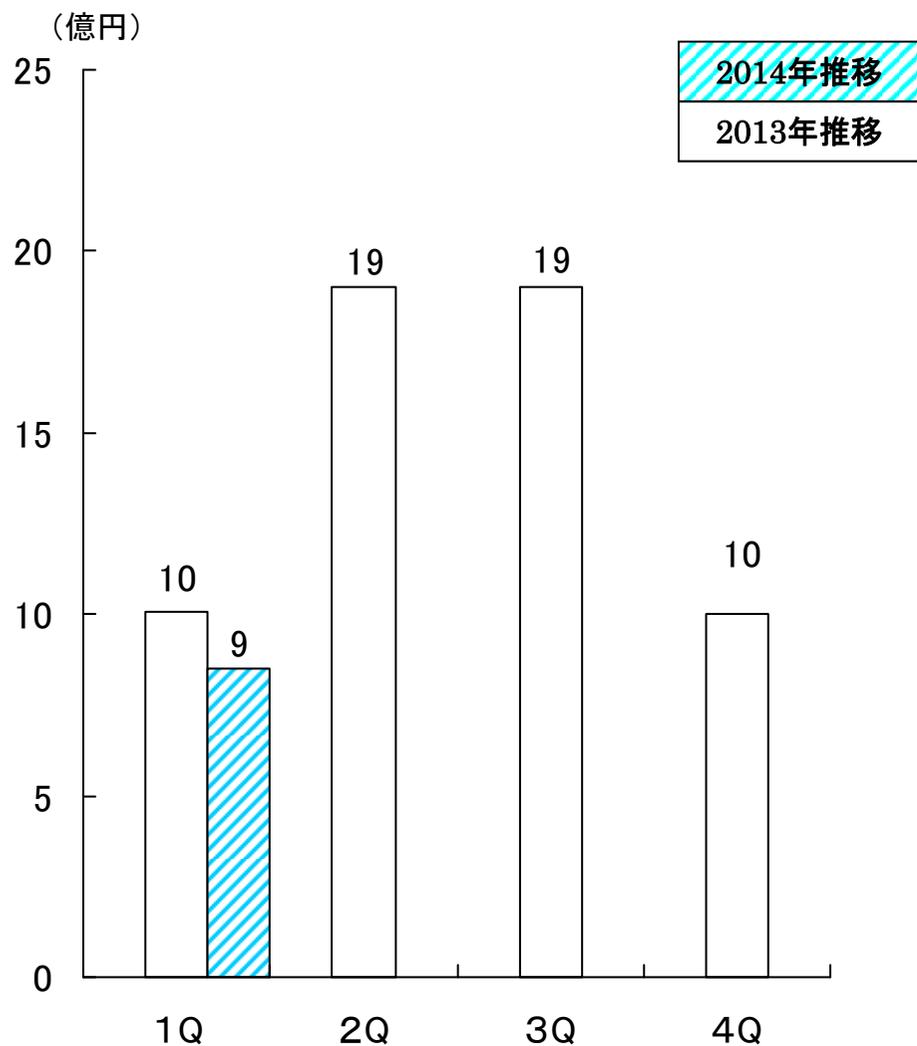


■無機セグメント

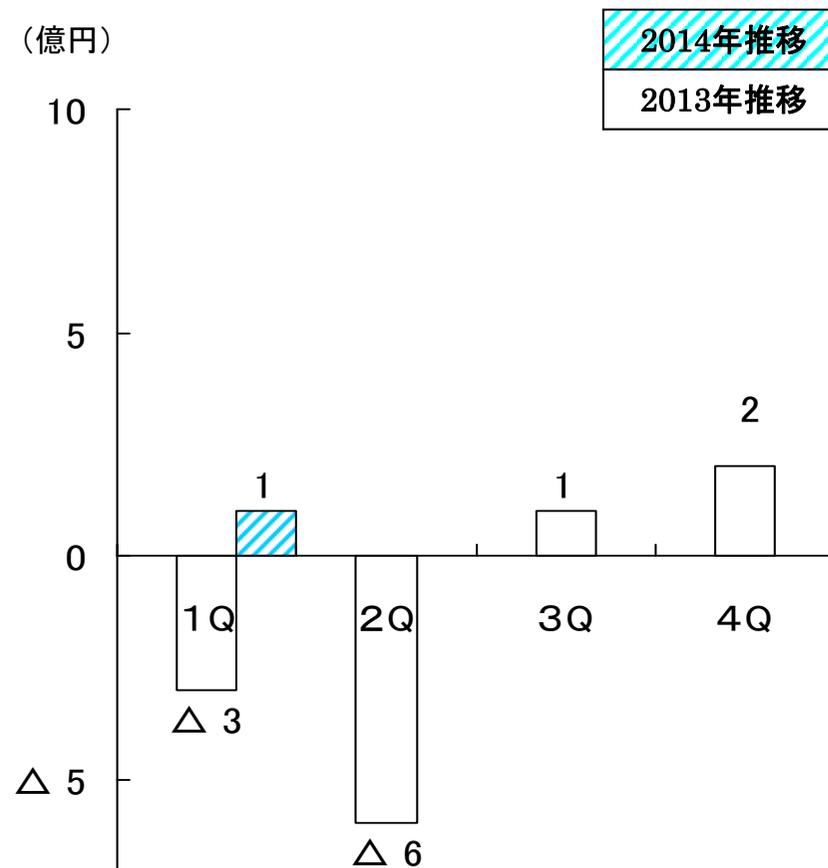


(ご参考)セグメント別営業利益推移

■アルミニウムセグメント



■その他セグメント



【全社施策】

●日本化学会より第5回化学遺産に認定

当社の前身の企業が日本で初めてアルミニウムの工業生産を開始した際の装置や資料などが、日本の化学と化学産業の発展に関する貴重な歴史資料であるとして、公益社団法人日本化学会より第5回化学遺産として認定を受けた。

昭和初期、アルミニウムの国産化は不可能とされていたが、当社創業者の森島昶らは、明礬石からアルミニウム原料となるアルミナの製造を成功させ、それまで輸入に頼っていたアルミニウムの国内における工業生産を可能とした。国内で入手可能な明礬石を原料とする独自技術と、長野県大町の水力発電による電力を活用したアルミニウムの製錬に関するこれら一連の資料が、わが国化学産業の創出・発展をもたらした先駆的な取り組みとして認定された。

●劣後特約付ローンによる資金調達を決定

2009年に当社が発行した2014年満期ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債(劣後特約付)および当社100%出資の特別目的会社であるSD Preferred Capital Limitedが発行したユーロ円建交換権付永久優先出資証券を、劣後特約付ローンによる総額240億円の資金調達により買入消却することを決定した。

【化学品セグメント】

●中国の高純度アンモニア生産拠点の増強

中国浙江省にある半導体製造用高純度アンモニアの生産子会社^(注)の供給能力を年産能力1,000トンから2,000トンに引き上げ、本年1月より運転を開始した。

当社グループの高純度アンモニアの増強後の年産能力は日本1,500トン、台湾2,500トン、中国2,000トンの計6,000トンとなった。

高純度アンモニアは、液晶パネルや化合物半導体(LED)などの製造工程において窒化膜形成用ガスとして使用される特殊ガスで、一般照明や液晶ディスプレイのバックライトに使用されるLED向け需要が拡大している。

当社は半導体高純度ガスを「ペガサス フェーズⅡ」において「成長」事業と位置づけて、これらの生産拠点が集積する東アジアにおいて供給体制の強化を図る。

(注) 浙江衢州巨化昭和電子化学材料有限公司

●韓国に高純度亜酸化窒素の拠点新設

(株)斗岩産業(本社:韓国京畿道安城市)との間で半導体製造用高純度亜酸化窒素生産に関する委託契約を締結するとともに、ソウル近郊の同社工場内に精製設備を共同で立ち上げることを決定。本年中に設備を完成させ、2015年から販売を開始する。

当社グループの高純度亜酸化窒素の増強後の年産能力は日本1,200トン、韓国600トンの計1,800トンとなる。

高純度亜酸化窒素は、半導体製造工程のCVDプロセスで絶縁酸化膜形成用ガスとして使用される特殊ガスで、アジア地区での半導体用途での需要は年率10~15%で拡大しており、東アジアにおける需要拡大にあわせ、当社の供給体制を強化する。

セグメント別トピックス

【アルミニウムセグメント】

●ベトナムのアルミ缶メーカーの株式取得

本年1月、子会社である昭和アルミニウム缶(株)と共同で、ベトナムのアルミ缶メーカーであるハナキャンズ社^(注)の株式91.75%を取得することで、ハナキャンズ社の主要株主と合意した。国内のビール・飲料缶市場は成熟化が進む一方、中国・東南アジアなどの新興国市場は、人口の増加や所得水準の向上により、今後高い成長が期待できる。これら新興国市場の中においても、現在、東南アジア最大のビール消費国であるベトナムでは、ビール需要の急速な拡大が見込まれており、2018年には現在の日本の消費量を超える見通しである。

当社は「ペガサス フェーズⅡ」においてアルミ缶を「成長」事業と位置づけている。ハナキャンズ社が持つ確固たる顧客基盤に加え、昭和アルミニウム缶(株)の生産技術および工程管理のノウハウを導入することで、需要拡大が著しいベトナム市場でのさらなる競争力の強化と事業拡大を図る。

(注)ハナキャンズ社: Rexam-Hanacans Joint Stock Company